

# FLANKER

プロップは昨秋、関西電力45周年記念「ひらめき大賞」の受賞作品（「電気の夢」というテーマの作文集）のビジュアル化をchallengedの仕事として受注しましたが、中でも「久保利恵さん」と「吉田幾俊さん」のアートは大変好評でした。



吉田くんの手がけた作品は「電気で、杖や車いすを安全に誘導してくれる道路」と、「夜間の電力を蓄積する巨大なゼンマイ・システム」という作文のコンピュータグラフィックス化。使用ソフトはIllustratorです。



利恵さんの作品は「地球の表と裏をつなぎ、夜の電力を交換して有効に使う」というアイデアと、「植物の光合成を活用して電力をおこす」という2作品。よく見ると、お花畑が「鯨」の形なのね・・・水彩画です。

# 障害者 うれしい在宅勤務



▶ 制作に励む久保利恵さん。絵本作家になるのが夢だ。17日午後一時、枚方市の自宅(右)。下は、夜間の余剰電力を地球の裏側へ送るイメージをかいた久保さんのイラスト

重い障害を持つ二人にとって、格別の「納品」だった。在宅でのパソコンや絵画の仕事で、初めて報酬を手に入れる道が開けたのだ。社会に出て働きたい。が、車いすの二人にとって通勤には「壁」がありすぎる。そんな折に吹いてきたパソコンの風。これなら在宅勤務ができる。キーボードに力こぼす日々へ。今、その努力がようやく実った。「障害者も自立できる世の中に。そんな夢が少しあった。十七日二人はそう話した。

## 電気の夢イラスト

プロの画家を目指す堺市イラストの発注を受け、作上野芝町の吉田幾俊さん(品を完成させたのだ。九と、絵本作家を夢見る枚吉田さんは脳性まひ。子方市北山の久保利恵さん(三) 供のころから絵をかくこと。関西電力から創立四十が好んで仕事にしたいと考五周年記念事業のイメージを「細部になると

右手が思うように動かず線が曲がってしまう、売れるような絵はかけない」と、半ばあきらめていた。才能を紙上で表現する。納入期限は十月末。パソコンを始めて半年余り。コンだった。「パソコンは十分使いこなせていないだけに根気のいる作業だった。それでもわき出るアイデアが、どんどんパソコンの画面にかき込んでいく。非営利の市民団体「フロンツ・ステーション」(事務局・大阪市、竹中十三代表)のパソコン講座に今年一月から通い始めた。そして、プロップを通じて関西電力から仕事の依頼があったのは、九月末のことだった。「今まで苦労をかけてきたけど、これからはぼくの十五周年。科学技術などに對する理解を深めてもらおうとイベントを企画。「電

# パソコン絵画で「自立」の道



パソコンを使ってイメージ図をかき吉田幾俊さん=17日午前10時、堺市の自宅



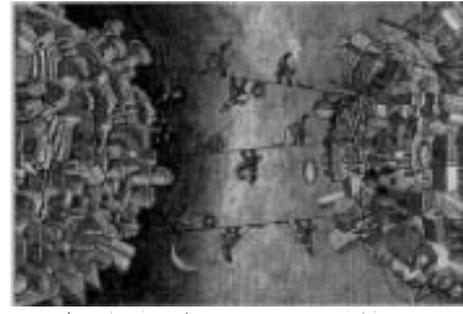
パソコンでかいた吉田さんの作品。「障害者が好きな所へ行ける電気の通る道路」がモチーフだ

吉田さんと久保さんの仕事。特に、在宅勤務の希望者が事が認められた意義は大きい。障害を持つ人々の「在宅勤務の道」の可能性を広げたからだ。プロップ・ステーションが五年前の発足時、就労意識に関するアンケートを行ったところ「勤務していない」と答えた障害者百四十人のうち約八割が「仕事があればしたい」と回答。吉田さんと久保さんの仕事。特に、在宅勤務の希望者が事が認められた意義は大きい。障害を持つ人々の「在宅勤務の道」の可能性を広げたからだ。プロップ・ステーションが五年前の発足時、就労意識に関するアンケートを行ったところ「勤務していない」と答えた障害者百四十人のうち約八割が「仕事があればしたい」と回答。さらに国や学者、民間企業に訴えかけて理解と支援を求めた。今回の二人のケースは、その活動の結晶といえる。背景には、真摯な思いがある。それは「障害者を納税者にしては日本」という理念だ。これまで「障害者」や高齢者といった人々は税金を財源とした社会福祉の対象となってきた。だが、い

## 就労拡大、挑戦の一步

つまで予算が続くのか。二十一世紀に、確実に訪れる高齢社会へのあり方にもかかわっている。竹中さんたちは障害者を「チャレンジド」と呼ぶ。「挑戦すべきことを神から与えられた人々」。アメリカ生まれの言葉だ。働きたい欲求、それは自己実現の欲求といっている。「保護される立場」から「納税者」に。二人の納品は、障害者が納税者になる挑戦の一步なのだ。(小山浩子)

## 力作「納品」初の報酬



コンだった。「パソコンは十分使いこなせていないだけに根気のいる作業だった。それでもわき出るアイデアが、どんどんパソコンの画面にかき込んでいく。非営利の市民団体「フロンツ・ステーション」(事務局・大阪市、竹中十三代表)のパソコン講座に今年一月から通い始めた。そして、プロップを通じて関西電力から仕事の依頼があったのは、九月末のことだった。「今まで苦労をかけてきたけど、これからはぼくの十五周年。科学技術などに對する理解を深めてもらおうとイベントを企画。「電